

2020年9月期

企業動向アンケート調査（第102回）

今期はマイナス幅が大幅に縮小、来期も今期比改善の見込み

1. アンケート回答企業の今期（7～9月期）の業況判断DI（全体）は前期比+31Pの「▲21」となり、来期（10～12月期）も今期比+5Pの「▲16」を見込み、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）の影響でマイナスが続く見通し。

<全般的業況判断DIの動き>

業種	DI		
	前期	今期	来期見通し
全体	▲52	▲21	▲16
製造業	▲52	▲20	▲14
建設業	▲25	▲11	▲11
卸小売業	▲59	▲23	▲26
サービス業	▲72	▲33	▲13

2. 業種別でも、全ての業種でDIが前期比改善した。来期は、製造業、サービス業で改善が見込まれる一方、卸小売業は悪化の見込み。

3. 資金繰りDIは全体で「+1」とプラスに転じ、設備・店舗等DIは全体で「▲9」、雇用者数DIは全体で「▲26」と不足感が依然強い。

4. 2021年度新卒者採用計画は、「採用なし」「未定」の企業が全体の5割を超え、採用予定者数は今年度比「横ばい」、学歴別は「高校卒」の回答が多かった。

5. 2021年度設備投資計画は、今年度比「横ばい」が最も多いが、20年度比では「減少」が上昇した。投資額別では「1千万円以上5千万円未満」、業種別では「製造業」がそれぞれ最も多かった。設備投資の目的では1位が「更新」、2位は「補修」となった。

6. 新型コロナの業況に与える影響の度合い（3カ月前と比較）では「強まった」が前期より減少した一方、「変わらない」は増加した。新型コロナの対策では、「就業時のマスク着用」「マスク・消毒液の備蓄」「国内出張を控える・取りやめる」「換気の徹底」など感染拡大防止の回答が上位となった。

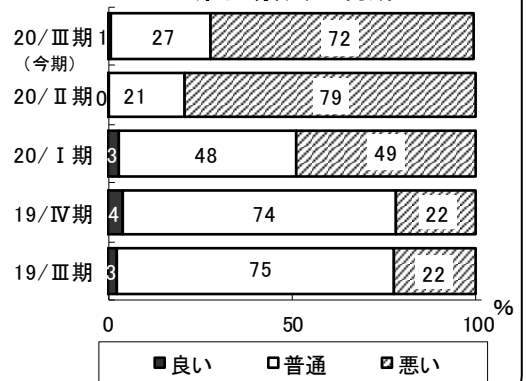
現在の県内景気をどう見えていますか？

<「悪い」が72%>

県内景気の判断は「悪い」が72%（前期比▲7P）、「普通」は27%（同+6P）となった。

前期は新型コロナの感染拡大に伴い景気判断が急激に悪化した。今期の調査は感染者数が減少しつつあり「悪い」が若干減少したものの、依然7割超を占める結果となった。

県内景気の判断



—アンケート調査の概要—

実施期間：2020年9月1日～9月15日

対象先：県内に本社または支店等を有する企業（600社）

内 容：①景況判断

②自社の業況

③2021年度の新卒者採用計画について

④2021年度の設備投資見込み額について

⑤新型コロナの影響について

調査方法：郵送によるアンケート

回収状況：回答企業 276社（回答率 46.0%）

※本調査は、当所と宮崎県が共同で実施し、調査結果は県政にも活用されることとなります。

<回答企業内訳>

		業 種				資 本 金		
		製造業	建設業	卸小売業	サービス業	3千万円未満	1億円未満	1億円以上
企業総数	276 100.0%	96 35.0%	60 21.9%	73 26.6%	45 16.4%	140 52.6%	111 41.7%	15 5.6%
県 央	138 50.4%	32	28	45	33	70	58	6
県 北	65 23.7%	25	17	17	6	32	28	5
県 南 西	71 25.9%	39	15	11	6	38	25	4

注) 業種、資本金、所在地の未記入企業があり、総数と一致していない。下段は企業構成比率

<所在地区分>

県 央：宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

県 北：延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

県南西：都城市、小林市、えびの市、日南市、串間市、北諸県郡、西諸県郡

<業種区分>：サービス業には、製造、建設、卸小売業以外の業種を含む

<文中の用語>

前期：2020年4～6月期（6月調査）

今期：2020年7～9月期（9月調査）

来期：2020年10～12月期（12月調査）

I期：1～3月、II期：4～6月

III期：7～9月、IV期：10～12月

DI(Diffusion Index)

「好転・増加・過剰」の回答割合(%)—「悪化・減少・不足」の回答割合(%)=DIで、景気動向を判断する指標のひとつ。

P:ポイント

## 1. 全般的業況判断 (表1、図1)

### 前期比大幅改善

今期の全般的業況DI(「好転」-「悪化」)は前期比31P改善の「▲21」となったが、依然マイナス幅は大きい。

業種別、従業員別、企業規模別でも、それぞれ前期比改善した。新型コロナによる緊急事態宣言や営業自粛等が解除され、県内の感染者数も減少傾向にあり、企業も新型コロナを考慮した業務形態が定着し、「悪化」の割合が低下した。

表1. 今期の全般的業況(業種別・規模別)

		単位:%、ポイント				
項目	業況	好転 (A)	悪化 (B)	今期DI (A)-(B)	前期 DI	来期 DI
全体	(276)	17	38	▲21	▲52	▲16
業種	製造業(97)	19	39	▲20	▲52	▲14
	建設業(61)	15	26	▲11	▲25	▲11
	卸小売業(73)	21	44	▲23	▲59	▲26
	サービス業(45)	9	42	▲33	▲72	▲13
従業員	50人未満(156)	15	42	▲27	▲55	▲20
	50~99人(51)	18	37	▲19	▲51	▲23
	100~199人(22)	23	23	0	▲47	▲9
	200人以上(36)	19	31	▲12	▲46	3
資本金	3千万円未満(141)	16	36	▲20	▲54	▲14
	3千万~1億円未満(112)	19	41	▲22	▲50	▲20
	1億円以上(15)	7	33	▲26	▲40	▲27

不明分は除く、( )は回答企業数

## 2. 業種別DI

業況(前期比)、売上・利益(前年同期比)

### ○製造業 (図2、次頁表2)

#### 前期比大幅改善

今期の全般的業況DIは、前期比32P改善の「▲20」となった。

分野別では、「化学製品」「食料品・飲料」が「需要の回復」「インターネットによる直販」などで改善した一方、「金属製品」「電気・電子部品」は「受注の減少」などで悪化した。

来期は「年末の需要増」等により、「好転」の回答が増え、DIは「▲14」と今期比6P改善の見込み。

図2. 製造業DI

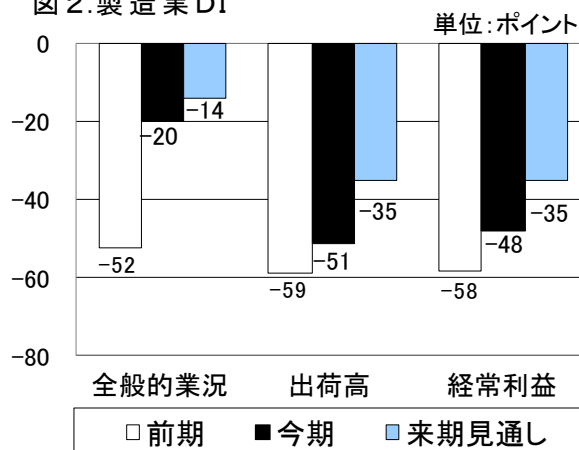


図1. 全般的業況のDI推移

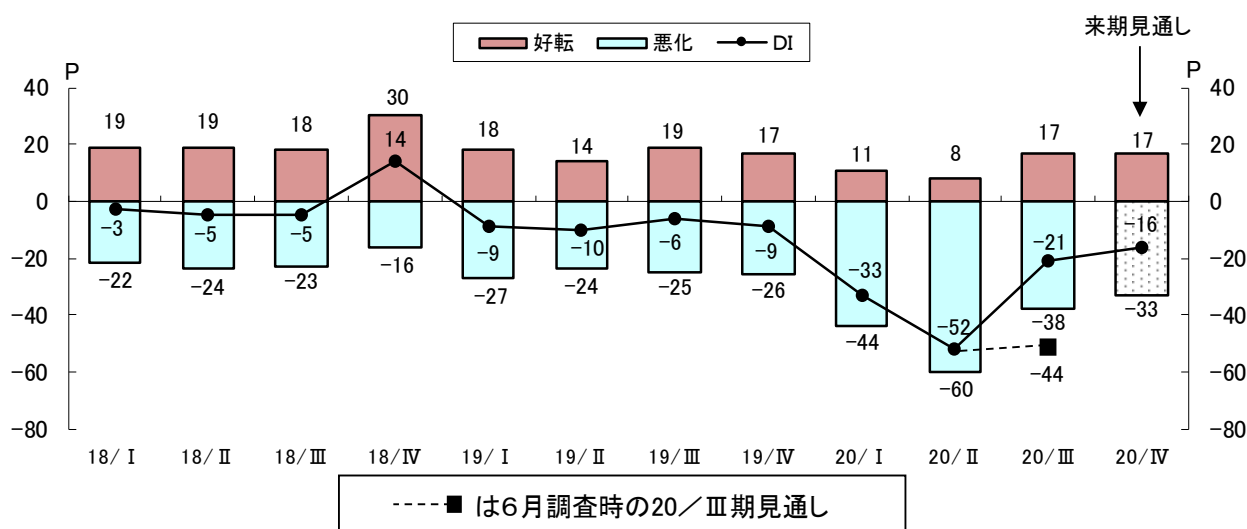


表 2. 製造業 9 分野における業況 DI

分野	単位: %、ポイント			今期DI	前期DI
	好転	不変	悪化		
食料品・飲料	28	48	24	4	▲ 58
繊維製品	38	13	50	▲ 12	▲ 50
木材木製品	8	38	54	▲ 46	▲ 50
化学製品	100	0	0	100	▲ 100
窯業土石	25	50	25	0	▲ 50
機械器具	0	50	50	▲ 50	▲ 100
金属製品	9	36	55	▲ 46	▲ 44
電気電子部品	0	0	100	▲ 100	▲ 50
その他製造業	13	50	37	▲ 24	▲ 45

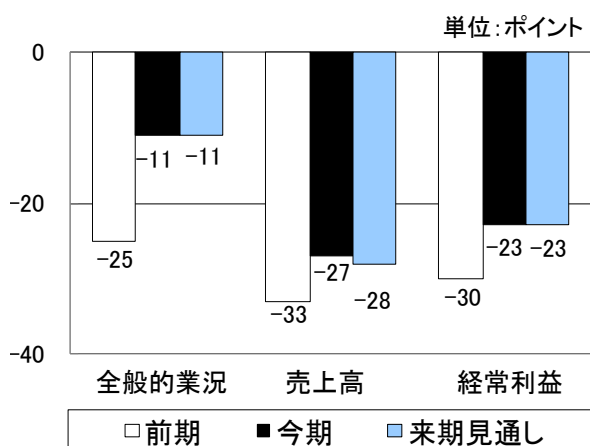
○建設業 (図 3)

前期比改善

今期の全般的業況 DI は、前期比 14 P 改善して、「▲ 11」となった。「公共工事を受注」「前期の繰越工事あり」等が「好転」の理由として挙げられた。

来期も、「新型コロナで延期した工事を再計画」「公共工事の増加」「大型案件を受注」「今期並みの受注」などで「好転」「不変」の回答が依然として多く、DI は「▲ 11」と今期比横ばいの見込み。

図 3. 建設業 DI



○卸小売業 (図 4)

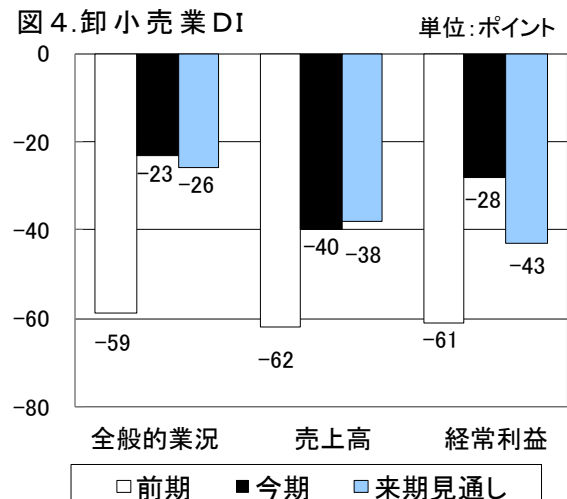
前期比大幅改善

今期の全般的業況 DI は前期比 36 P 改善の「▲ 23」となった。

「コロナ禍や給付金で、1人当たりの支出額が増加」「内食、中食、衛生用品需要の増加」「テイクアウト、通販の売上増」など「好転」「不変」の回答が増えた。

来期も「新型コロナによる衛生用品や内食の需要が続く」など、「不変」を予想する回答が多いものの、「不振事業の縮小・廃止」「業務用食材需要の減少」など「悪化」の回答も多く、DI は「▲ 26」と 3 P 悪化の見込み。

図 4. 卸小売業 DI



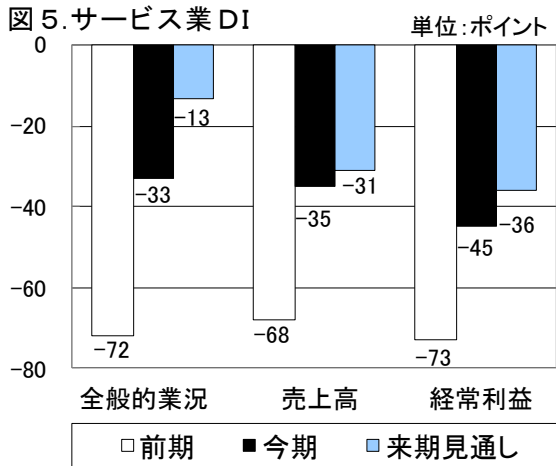
○サービス業 (次頁図 5)

前期比大幅改善

今期の全般的業況 DI は前期比 39 P 改善したが「▲ 33」と、マイナス幅は依然大きい。

新型コロナによる「宿泊、観光客の減少」「イベントの中止」など「悪化」が依然多いものの、「新型コロナの規制が解除され営業を再開」など「好転」の回答も増えた。

来期は、「IT 需要の増加」「観光・宿泊キャンペーンによる需要の回復」など「好転」「不変」が増え、DI は「▲ 13」の見込み。



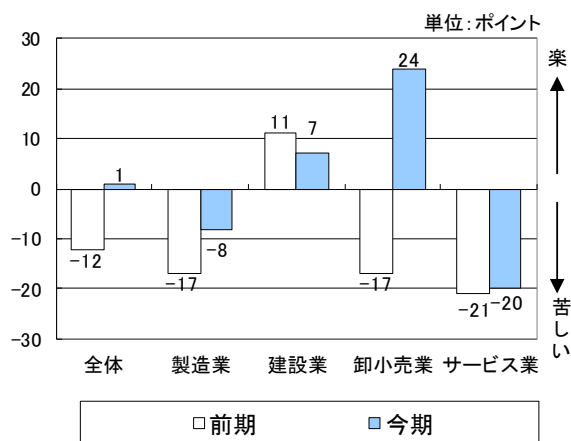
### 3. 資金繰りの現状 (図6)

#### 全体の資金繰りはプラスに転ずる

資金繰りの現状DI(「楽」-「苦しい」)は、「全体」で「+1」と3期ぶりにプラスに転じた。新型コロナウイルスによる各種助成金などもあり、全体の資金の不足感は和らいでいる。

業種別では、卸小売業が「+24」と大幅改善した。

図6. 資金繰りの現状DI

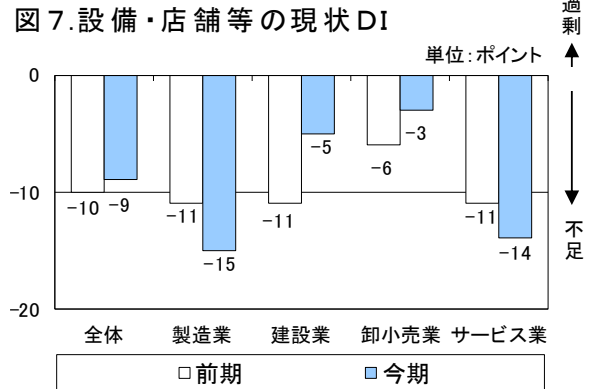


### 4. 設備・店舗等の現状 (図7)

#### 製造業、サービス業の不足感が強い

設備・店舗等の現状DIは「全体」で「▲9」と前期比ほぼ横ばいであった。

業種別では、製造業、サービス業が前期と比べて、不足感が強まった。



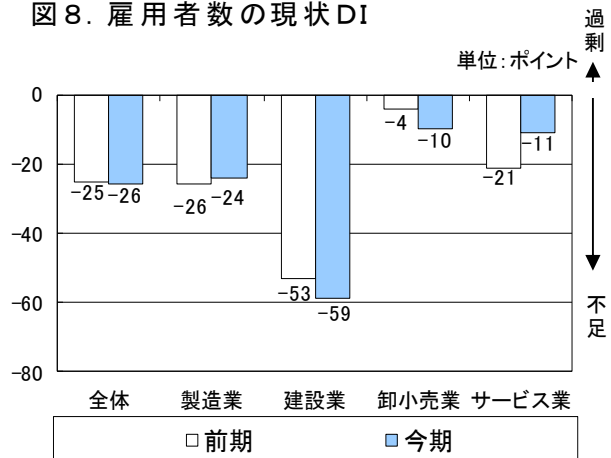
### 5. 雇用者数の現状 (図8)

#### 建設業で雇用者数が「不足」

今期の雇用者数の現状DIは、「全体」で「▲26」となった。

業種別では、建設業が「▲59」と不足感が強まっている。前期比では、サービス業の「不足」の幅が縮小した。

図8. 雇用者数の現状DI



### 6. 2021年度新卒者採用計画

(次頁表3、図9)

#### 今年度比「横ばい」が最多

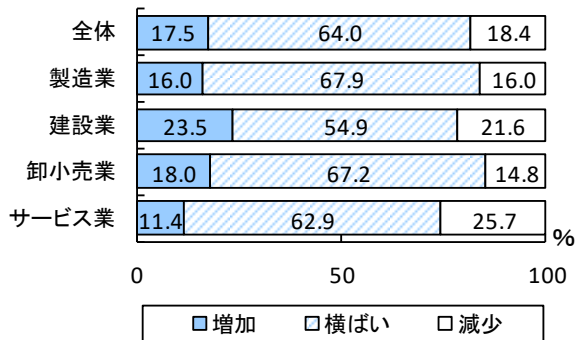
2021年度の新卒者採用計画では、「採用なし」「未定」とする企業が全体の約5割を占めた。一方、採用を予定する企業の採用人数は、今年度比「横ばい」が全体の64.0%を占め、学歴別では「高校卒(306人)」が最も多い。

表3. 2021年度新卒者採用計画  
(業種別、採用人数別)

		単位:社、人				
		全体	製造業	建設業	卸小売業	サービス業
企業数	採用なし	103	42	13	31	17
	1～5人	100	32	32	22	14
	6～10人	17	3	5	8	1
	11～20人	5	3	1	-	1
	21人以上	5	3	-	2	-
	未定	46	14	10	10	12
合計		276	97	61	73	45
採用人数	大学卒	156	54	23	55	24
	短大・高専卒	35	6	9	17	3
	専門・専修卒	53	12	16	23	2
	高校卒	306	154	73	49	30
	合計	567	228	121	159	59

※学歴不問の企業もあり、採用人数の内訳と合計は必ずしも一致しない

図9. 2021年度新卒者採用計画  
(今年度実績比)



## 7. 2021年度設備投資計画

(表4、5、図10)

全体では「減少」が20年度比11.3P上昇

2021年度設備投資計画は、全体で「横ばい(31.6%)」が最も多いが、20年度比では「減少(30.3%)」が11.3P上昇した。業種別では、サービス業で「減少(35.9%)」が同+26.6P上昇し、前頁図6(資金繰りの現状DIが▲20)での資金不足感を裏付ける結果となった。

投資額別では「1千万円以上5千万円未満(44社)」、業種別では「製造業(37社)」がそれぞれ最多だった。設備投資の目的は「更新(41.9%)」が最も多く、以下「補修(40.3%)」「合理化・省力化(29.0%)」となった。20年度比では「合

理化・省力化(+8.5P)」が拡大した一方、「増産・売上増(▲5.3)」は縮小した。

表4. 2021年度設備投資計画

(今年度実績比)

		単位:%			
		増加	横ばい	減少	不明
全	体	15.2	31.6	30.3	22.9
		16.9	38.8	19.0	25.3
製	造業	13.1	29.8	34.5	22.6
		15.8	28.9	26.3	28.9
建	設業	12.0	40.0	24.0	24.0
		26.4	43.4	7.5	22.6
卸	小売業	29.3	29.3	25.9	15.5
		9.2	40.0	26.2	24.6
サ	ービス業	2.6	28.2	35.9	33.3
		18.6	48.8	9.3	23.3

上段:2021年度

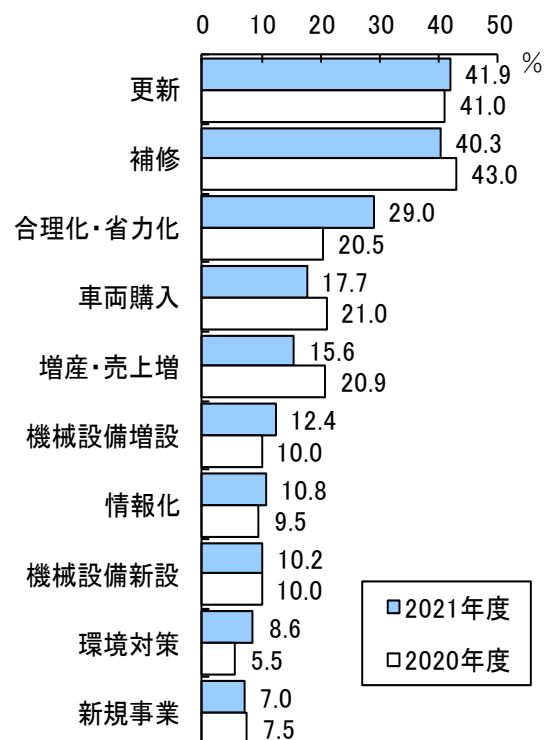
下段:2020年度

表5. 2021年度設備投資計画(投資額別)

		単位:社				
		全体	製造業	建設業	卸小売業	サービス業
1千万円未満		31	7	12	9	3
1千万円以上		44	18	8	14	4
5千万円未満						
5千万円以上		13	6	2	3	2
1億円未満						
1億円以上		13	5	4	2	2
10億円未満						
10億円以上		3	1	0	1	1
合計		104	37	26	29	12

注)不明分及び未定は除く

図10. 設備投資の目的(複数回答)



## 8. 新型コロナの影響

(表6、7、図11)

### 影響は3カ月前と「変わらない」が最多

新型コロナの業況に与える影響の度合い(3カ月前と比較)では、全体で「変わらない(48.1%、前期比+17.4P)」が最も多く、業種別でも、全ての業種で「変わらない」が最も多かった。

内訳では、プラスの影響として、感染防止ノウハウの充実や、インターネット経由での注文の増加などがあつた。

マイナスの影響では、売上減や営業活動の縮小、価格の下落などが挙げられた。

表6. 新型コロナの影響の度合い 単位:%

	強まった	弱まった	変わらない	影響はない
全体	21.5	14.8	48.1	15.6
	38.6	15.0	30.7	15.7
製造業	27.7	20.2	43.6	8.5
	45.9	10.2	25.5	18.4
建設業	11.7	10.0	46.7	31.7
	14.3	17.5	38.1	30.2
卸小売業	18.1	16.7	56.9	8.3
	43.0	20.3	32.9	3.8
サービス業	27.3	6.8	45.5	20.5
	47.2	13.2	28.3	11.3

上段:今期  
下段:前期

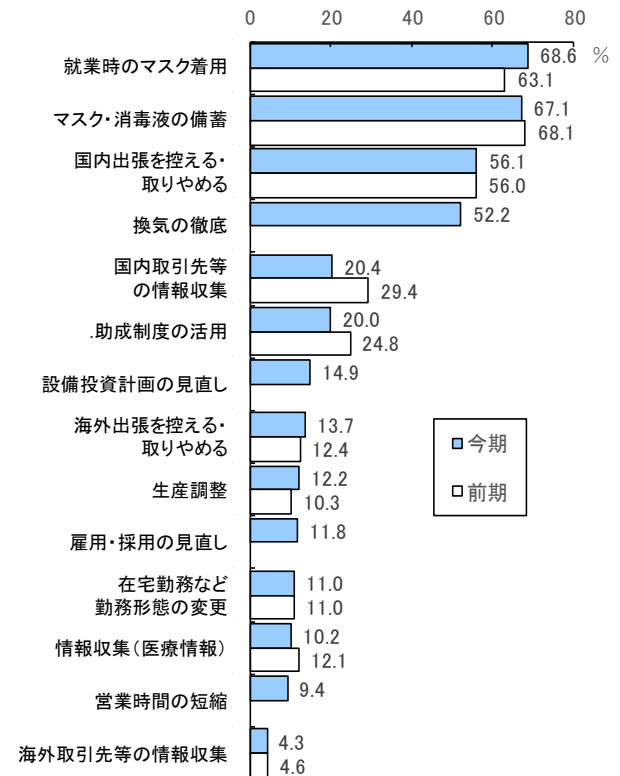
表7. 影響の内訳

プラスの影響
感染防止対策やノウハウの充実
中食・内食関連の売上増加
感染対策リフォーム工事の増加
インターネット経由での注文の増加
室内娯楽の需要増
マイナスの影響
休業要請による売上減
県外での営業活動の縮小
荷動きの減少
濃厚接触者の休務
大人数での来店の減少
社員の安全配慮が必要
売上減による士気の低下
イベントの中止
畜産物の価格下落
対面機会の縮小
設備投資の減少
旅行の予約が減少
燃油の売上減

### 対策は「就業時のマスク着用」が最多

新型コロナの対策では、「就業時のマスク着用(68.6%)」「マスク・消毒液の備蓄(67.1%)」が6割を超えた。また、今回の調査で新たに加えた「換気の徹底」も52.2%あつた。

図11. 新型コロナの対策(複数回答)



### まとめ

今期の業況判断は「悪化」が減り「不変」が増えてDIは改善したが、一部に前期からの業況低迷の長期化で「不変」と判断する回答もあつた。

来年度の新卒採用は今年度並みだが、設備投資を減らす回答が増え、投資の内容も合理化・省力化など、業務の効率化を考慮した投資が目立った。

新型コロナの影響は変わらず、対策も防疫に重点がおかれ、影響が収束するまで更なる中長期的な対応が必要とされる。

(勝池)

### 第102回企業動向アンケート結果(業種別)

		<今期見込み>				<来期見通し>			
		好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)	好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)
アンケート回答	全 体	17	45	38	▲ 21	17	50	33	▲ 16
企業の全般的業況	製 造 業	19	42	39	▲ 20	20	46	34	▲ 14
	建 設 業	15	59	26	▲ 11	15	59	26	▲ 11
	卸 小 売 業	21	36	44	▲ 23	15	44	41	▲ 26
	サービス業	9	49	42	▲ 33	16	56	29	▲ 13
売上(出荷)高	全 体	15	30	55	▲ 40	13	39	47	▲ 34
	製 造 業	12	25	63	▲ 51	13	38	48	▲ 35
	建 設 業	11	51	38	▲ 27	11	49	39	▲ 28
	卸 小 売 業	19	22	59	▲ 40	15	32	53	▲ 38
	サービス業	18	29	53	▲ 35	13	42	44	▲ 31
経常利益	全 体	16	32	52	▲ 36	12	42	46	▲ 34
	製 造 業	11	30	59	▲ 48	11	42	46	▲ 35
	建 設 業	11	54	34	▲ 23	11	54	34	▲ 23
	卸 小 売 業	27	18	55	▲ 28	12	33	55	▲ 43
	サービス業	13	29	58	▲ 45	13	38	49	▲ 36
		現 状							
		楽 過剰 (A)	普通 適正 (B)	苦しい 不足 (C)	D I (A)-(C)				
資金繰り	全 体	21	59	20	1				
	製 造 業	18	57	26	▲ 8				
	建 設 業	23	61	16	7				
	卸 小 売 業	32	60	8	24				
	サービス業	11	58	31	▲ 20				
設備・店舗等	全 体	8	76	17	▲ 9				
	製 造 業	7	71	22	▲ 15				
	建 設 業	5	85	10	▲ 5				
	卸 小 売 業	12	73	15	▲ 3				
	サービス業	4	78	18	▲ 14				
雇用者数	全 体	10	54	36	▲ 26				
	製 造 業	10	56	34	▲ 24				
	建 設 業	7	28	66	▲ 59				
	卸 小 売 業	11	68	21	▲ 10				
	サービス業	13	62	24	▲ 11				